

INTERVIEW

国民健康保険名田庄診療所 所長
中村伸一先生



地域に長くいること、 それもひとつのキャリア

聞き手：山田隆司 地域医療研究所長

村全体の健康と福祉を考えよう！

山田隆司(聞き手) 今日は福井県の旧 名田庄村(現 おおい町)に中村伸一先生をお訪ねしました。中村先生はNHKの「プロフェッショナル 仕事の流儀」(2009年1月放送)に出演されて以来、一般にも有名な先生ですが、まずは自己紹介も兼ねてご経歴を簡単にお話しいただいた後、この施設の創設や全国国保診療施設協議会(国診協)での取り組み、総合診療医についてなど、お話を伺いたいと思います。

中村伸一 私は自治医科大学12期生で、福井県立病院での2年間の初期研修後、卒業後3年目に旧名田庄村の診療所に派遣となりました。県立病院ではスーパーローテート研修でERの教育もしっかり受けていたので、赴任する直前には「自分は幅広く診られる」と結構自信を持っていたの

ですね。ところが……確かに幅広く初期診療はやりましたが、慢性疾患の管理や介護、ヘルスプロモーションなどについてはからきし分からないまま赴任したわけです。自分はできると信じて来たのですが、2～3日でその自信は打ち砕かれました。これでは駄目だと思ったので一つ一つ学んでいきました。私も不安でしたが、不安な医師に診察される患者さんは多分もっと不安だったと思うのですね。スタッフも同様でしょう。それなのに地域の人たちはよく付き合ってくださいました。

今のようなインターネットの時代ではありませんから、分からないことがあると手元にある学生時代の教科書、研修時代に図書館で印刷した文献などで調べ、それでも駄目なら人的ネッ

トワーク、つまり自分の知っている人たちに電話をかけて聞く。そして最終的に自分の行った治療が正しいかどうかは、あとで直接その患者さんに尋ねることになります。気になる患者さんは自分で名前と電話番号を控えてあとで患者さんに聞く。「良くなりましたか?」と聞いて「良くなりました」と言えば、「あの薬が効いたのか、それとも自然に治ったのでしょうか?」と確認する。「中村先生の薬では治らなかったので、他の病院に行って別の薬をもらったら治った」と言われたら、「すみません。今度受診される時にその薬を見せてもらえますか?」とお願いしたり……。情けない話ですが、それが一番のフィードバックになるのです。

今の若い医師の中には、自分がエビデンスに基づいた診療をしているかどうかばかりを気にしている人を見かけます。もちろんエビデンスの重要性は言うまでもありませんが、自分自身よりも、もっと患者さんに目を向けてほしいと思うことがありますね。

山田 先生は旧 名田庄村に3年目に着任してからこれまでずっとここで続けられてきたのですか。

中村 最初に赴任して5年間続けていましたが、福井県は義務年限の中で2年間後期研修を受けられるので、最後の2年間、福井県立病院で外科の後期研修を受けました。

山田 義務派遣は1~2年で変わっていくのが普通ですが、先生はどういうことで最初に5年いることになったのですか。

中村 うちの診療所のスタッフと役場の住民福祉課

の職員、社会福祉協議会の職員が「あの92歳の寝たきりのおばあさんをどうやってお風呂に入れようか」というような会議をしていたのですね。そんな話から、お風呂に入れるといったことだけでなく、もっと広く村全体の健康と福祉について考えようということで「健康と福祉を考える会」を結成することになりました。その取り組みを始めて、それがだんだん面白くなっていき、結局ずっといることになりました。

「健康と福祉を考える会」をつくる際に手本としたのが、学生時代に同級生の坂根直樹先生(京都12期生)と1週間泊まり込んで実習した新潟県のゆきぐに大和総合病院。それから山口 昇先生が書かれた「寝たきり老人ゼロ作戦」という本を読んで、広島県御調町(現 尾道市)。そこは行ったことはなかったのですが、その2つをお手本として、保健・医療・福祉が連携して地域全体を包括的にケアすることができないかと考えました。

当時、訪問診療や訪問看護はうちの診療所から行っていましたが、ヘルパーさんや保健師さんの訪問はバラバラだったのでうちの看護師がスケジュール調整をして効率的に訪問するようにしました。また多職種が連携して健康祭やケアカンファレンスを実施しました。村の老人保健福祉計画も外部の業者に依頼せずにみんなで知恵を出し合って、アンケート配布から回収、分析までやって手作りで老人保健福祉計画を策定しました。在宅ケア講座という講演会も「健康と福祉を考える会」が主催して行いました。

行政の立場で

山田 当時はまだこの施設はなかったのですか。

中村 診療所はここから1kmほど離れたところになりました。診療所、役場、社会福祉協議会運営の老

人福祉センターは建物がみんなバラバラだったので、保健・医療・福祉が一体化した建物を作りたいという話が起こり、何年も議論し、平成11年